



こくろうよなご

第10号
2024年1月10日
発行責任者 倉下文明
編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

何もしなければ格差は拡大

24春闘に向け「労働講座」を開催

昨年12月23日、国労会館からの委託により元月間労働組合編集長の「松上隆明」氏を講師に迎え労働講座を開催、国労組合員はもとより企業内外からの参加者と共に「24春闘を取り巻く情勢と私たちの課題」について、学び合ってきました。

なんか上がるかも？

24春闘に向けて「連合」含めて、各産別の要求が出そろってきていますが、既に一部の経営者からは、その要求を上回る賃上げ案が提示をされるようになってきています。これだけ見ると、「労働組合が頑張らなくても賃金は上がるのでは」と安易に考えてしまいうにもなります。

しかし、賃上げを示唆しているのは円安の恩恵を受け業績が急回復した輸出型企業が多岐にわたります。一方で、23春闘の総括から見えてきたものはなんでしょうか。23春闘では、各労組で「満額回答」が続きました。満額回答という労働組合の取り組みの成果だと考えたところですが、もと各労働組合内に蔓延する「要求抑制論」が生み出した結果であると

蔓延！業績への付度

では、23春闘の総括から見えてきたものはなんでしょうか。23春闘では、各労組で「満額回答」が続きました。満額回答という労働組合の取り組みの成果だと考えたところですが、もと各労働組合内に蔓延する「要求抑制論」が生み出した結果であると



「24春闘を勝ち取る秘訣」と題し、松上隆明氏（元国労編集長）が講師を務めた。会場には多くの参加者が集まり、熱心に話を聴いていた。

も言われていました。

一方で、人手不足と地域別最低賃金の引き上げを追い風にして、イオン労連では正社員6%、パート社員7%の賃上げ（昇給分含む）、私鉄総連の示した9900円ペア要求の満額を勝ち取った関東バス労組・小田急バス労組など、組合の強い思いが結果にも繋がってきています。会社業績への配慮・付度からまともな要求できない組合が続出しているとの言葉に「はっと」させられるものもありました。

甘い言葉に裏がある

陰口言う間もありません！

労働講座終了後は、4つのグループに分かれて、分散会を行いました。第一分散会では、5人で生活・職場実態を議論してきました。

生活では、「特段困ることはない」という一方で、外食することや減っていたり、服について買ったり、節約など、「我慢・節約」が当たり前になつていて現状が報告されています。また、10月にデズニイラン

要望・意見は何処に言えば！

去る12月21日、米子市役所で「伊藤ひろえ市議」の紹介で、交通政策担当者との意見交換を行いました。米子市の交通政策の現状として、「地域公共交通活性化再生法」に基づき、従来のバスに基き、従来のバスの事業者・労働組合役員との協議体から、JRも含めての議論がされるようになってくるそうです。

唯一、現時点、大きな枠組みは決まっているが、具体的なものは、これからの課題であると言われました。また、現市長になり、

「早く駅運転へ帰る」「職場の人間関係の改善を図る」「今のまま淡々と65才まで働く」「来年もデズニイランドに行く」など、それぞれが決意を胸に闘うことを意思統一し、分散会を終えてきました。

の陰口もいう暇などない」「点呼アプリが入ったが、指導職に聞いてもらいが明かす、結局自分でやるしかない」「引継ぎがされないまま、産休に入り、部外の社員のような仕事のやり方になっている」「臨時運適に合格した人の配属先を早く決めてもらいたい」など、報告されていました。異常時対応の困難さどころか、ルーティン業務でさえもともに遂行する事が難しいような職場状況にある事が明らかにになりました。最後に24春闘にむ

